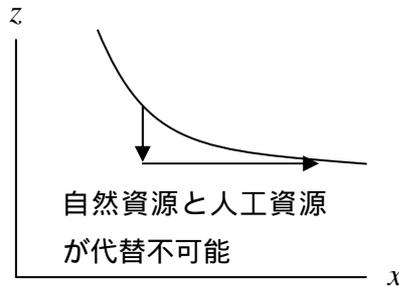


2004 年度 環境経済学前期試験 解答および採点基準

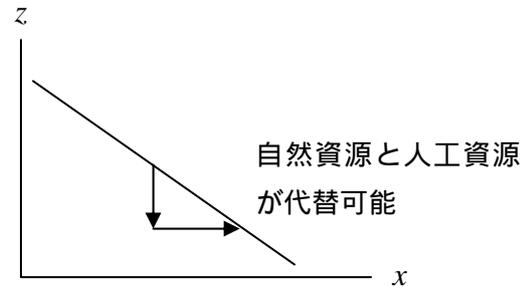
問1 (1) 84 (2点) (2) 64 低下 (2点) (3) 32 増加 (2点)

(16) (4) どれだけ増やしても維持できない (2点)

(5) 強い持続可能性(4点)



弱い持続可能性 (4点)



注: x と z が逆の場合も OK。無差別曲線のみときは各2点。文章または図で代替可能性の違いを示されてあれば OK とする。

問2 (1) x_1 6ヘクタール(2点) p_1 4円(2点) (2) x^* 2ヘクタール (2点) p^* 6円 (2点)

(13) (3) 6ヘクタール増える (5点)

問3 (1) x_1 4 (2点) p_1 8円 (2点) (2) x^* 2 (2点) p^* 10円 (2点)

(17) (3) x_2 $x=(12-t)/3$ (2点) p_2 $p=(24+t)/3$ (2点) (4) t^* 6 (5点)

問4 (1) 持続可能な発展(4点)

(24) 将来世代の要求を満たす能力を損なうことなく、現代世代の要求を満たす発展

(2) 成長の限界(4点)

資源の限界や環境汚染の限界によって経済成長が限界を迎えること

(3) 市場の失敗(4点)

生産者(または消費者)の経済活動が市場を経由せずに別の生産者(または消費者)に影響を及ぼすため市場メカニズムが機能しないこと

(4) 政府の失敗(4点)

政府が補助金政策などの政府介入により環境破壊を促進させること

(5) コースの定理(4点)

所有権の所在に関わらず、加害者と被害者が当事者間交渉により外部効果を内部化できること

(6) 容器包装リサイクル法(4点)

ペットボトルなどの容器包装を分別・回収・再商品化することを義務付けた法律

問5 以下に(1)～(3)の各回答を記入しなさい。回答を記入する際には、設問番号(1)、(2)、(3)を記入すること。回答欄が足りない場合は裏面に続けて記入すること。配点 30 点、各 10 点

(1) 環境問題を裁判によって解決する方法の利点と限界点について経済モデルを用いて、かつ経済実験の結果を踏まえて説明しなさい。

利点：コースの定理に関する経済モデルによる説明（当事者間交渉による外部効果の内部化、グラフまたは数式）

限界点：交渉力による影響（情報の非対称性など）、取引費用による影響（裁判費用など）

経済実験の結果（交渉によって利得は増える、交渉手順によって結果が変わる）

(2) 排出量取引について、経済モデルを用いて、かつ経済実験の結果を踏まえて説明しなさい。

排出量取引の言葉による説明

経済モデルによる説明（グラフまたは数式を用いた説明）

経済実験の結果（相対取引、オークション、どちらも利得は増える）

(3) ゴミ有料化によるごみ排出量削減効果が地域によって異なる原因について、経済モデルを用いて具体的に説明しなさい。

経済モデルによる説明（グラフまたは数式を用いた説明）

価格弾力性の違い（限界削減費用曲線の傾きの違い）

その原因：農山村地域では堆肥利用、自家償却が可能、都市地域では困難

グラフまたは数式による説明がない場合は最大 6 点

2004 年度 環境経済学前期試験 集計結果

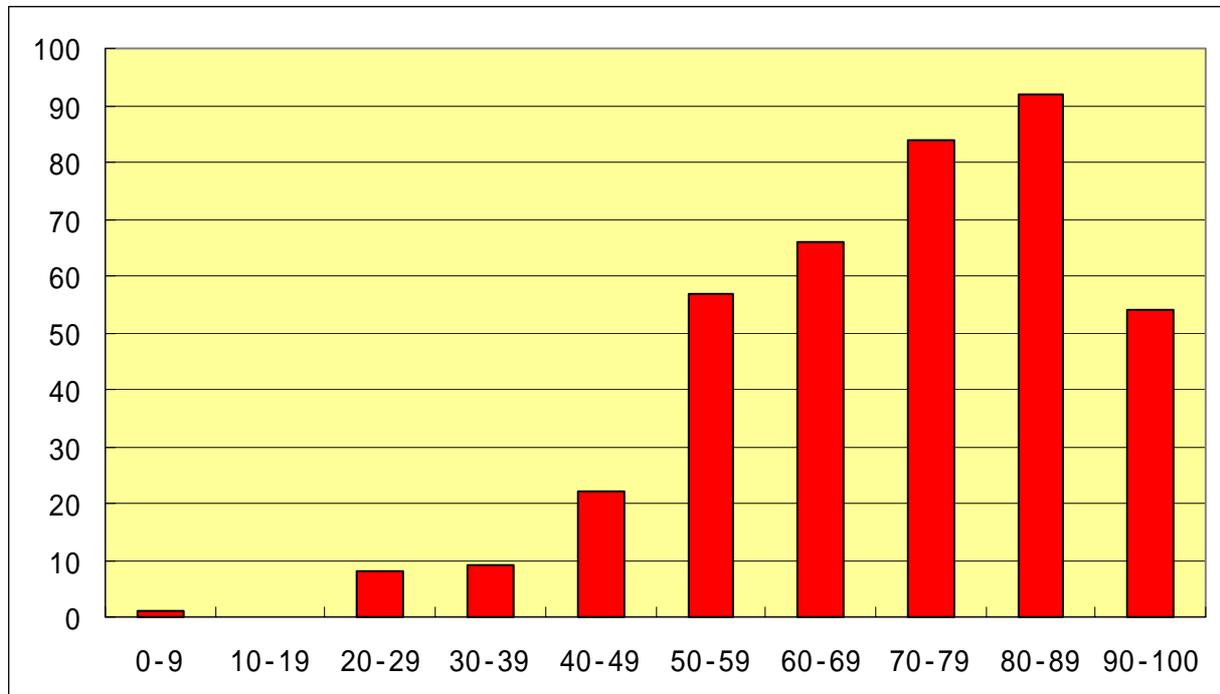
1. 前期試験について

平均点 71.3 点 (素点、前期試験の採点結果のみ)

表 1 設問別平均点

設問	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	合計
配点	16	13	17	24	30	100
平均	12.7	8.6	8.9	22.2	18.9	71.3

図 1 ヒストグラム (素点)



2. 成績評価について

以下の比率で相対評価

表 2 成績評価基準

成績	秀	優	良	可	不可
比率	5%	25%	40%	15%	15%

注: 不可は不受験(6%)を含む